WONDER ISLAND
佐渡
SADO

鬼が棲む不思議の島へ

佐渡には今も鬼が棲んでいる

新潟県本土から佐渡島へ――。

カーフェリーに乗った瞬間から、

心を豊かにする、新しい旅が始まっていく。

佐渡島とは?

日本海に位置し、東京23区の約1・4倍の面積を持つ本州最大の島。人口は約5万1千人ほど。周りを流れる対馬暖流のおかげで、新潟県でありながら冬は意外と暖か。海のほか、1000メートル級の山、広い平野と自然に恵まれ、ここで育まれる豊かな食も魅力だ。鬼太鼓や能などの伝統芸能、歴史的遺構が数多く残り、国際保護鳥であり、国の特別天然記念物のトキを日常的に目にできるのも特徴。島内は両津、国中、南佐渡、相川の4エリアに大別できる。運転ができれば、自由のきく車移動がおすすめ。なお、新潟県本土から佐渡島への往復は佐渡汽船の船を使うのが基本。

島内移動

バスで移動する

新潟交通佐渡が運行する島内のバス路線は14路線。地元の人と一緒にのんびりバスに揺られる旅もよさそう! 1日、2日間、3日間乗り放題になるパスもあるので、ぜひ利用を

自転車で移動する

レンタサイクル『エコだっチャリ』はシティタイプほか全3種類を用意。島内3カ所で貸し出しを行っている。カーフェリーなら自分の自転車の持ち込みも可能(別途運賃が必要)

車で移動する

佐渡は意外と広い! なので、自由がきく車での移動がベスト。カーフェリーにマイカーを積んで行くもよし、レンタカーを借りるもよし、タクシーを利用するのもよし。人数、行き先等で検討を

新潟県本土から佐渡島へ

ジェットフォイルで旅する

船体を海面に浮上させることで超高速での走行を可能に。新潟〜両津間を67分で結ぶ。現在は写真のつばさのほか、すいせい、ぎんがが就航。全席指定

data 料金:新潟〜両津 一般大人片道7,460円

カーフェリーで旅する

車両も運搬できる巨大船。現在はときわ丸、おけさ丸が就航。写真のときわ丸は、広いエントランスホールをはじめ高級ホテルのような船内。新潟〜両津間を2時間30分で結ぶ

data 料金:新潟〜両津 2等大人片道3,370円

※料金は時期により変動。公式サイトで最新情報を確認。
なお、2023年3月に直江津〜小木にカーフェリーが就航予定

佐渡汽船公式サイト >>

佐渡の鬼太鼓とは

迫力満点の鬼の演舞 幸せを願う特有の文化

力強く打ち鳴らされる太鼓の音と、提灯持ちの威勢のよい掛け声に合わせて、時には飛ぶように、時には静かなる舞を見せる鬼。これが佐渡の鬼太鼓（おにだいこ・おんでこ）だ。島内に古くから伝わる芸能で、いつ頃から始まったかは定かではない。だが江戸時代に金銀山の隆盛により島外から様々な文化が持ち込まれたことが影響していると言われている。集落ごとに継承されていて鬼の面を付けた鬼役と太鼓の打ち手が基本の様式。しかし、長い継承の過程で踊り方や太鼓のリズム、鬼面や衣装なども多様化。「同じ鬼太鼓は一つとしてない」と言われ、現在でも島内に100を超える団体がある。春から秋にかけて五穀豊穣や家内安全を祈りながら集落のまつりで演舞され、朝一番で集落の神社にて舞を奉納した後に家々を一軒一軒廻り舞を披露する「門付け」を行う。「鬼」と聞くと悪者のイメージだが、佐渡の鬼は地域と暮らしを守るヒーローとされ親しまれている。

両津港から近い春日町で地元の青年会が中心となり、昭和6年から鬼太鼓を始めたのが春日鬼組だ。毎年4月14

齋藤日葵さん（左）*Haruki Saito*
中川将太さん（右）*Shota Nakagawa*

10代からシニアまで世代の違う人たちが集まる春日鬼組。鬼太鼓を通じて強い絆が生まれ、家族のような感覚があるという。ふたりとも幼い頃から大人たちが踊る鬼太鼓が大好きだった

齋藤博文さん
Hirofumi Saito

やってみたい人は誰でも受け入れるというスタンスの春日鬼組を率いる組頭。「鬼太鼓は世界に誇れる佐渡にしかない文化。可能性は無限だと思っています」。鬼太鼓の継承と島外への発信に尽力している

春日神社での春日鬼組による演舞。境内に響く太鼓と提灯持ちの掛け声に呼応するように、躍動感のある舞が披露される。その姿を見ていると熱い感情が湧き上がってくる!

日が春日神社の春の例大祭。1カ月前くらいから毎日稽古を行い、年に一度のまつりの日に鬼太鼓を奉納している。鬼役を務める若きふたりに聞いた。「面を付けると気持ちが変わる感覚があります。上手に舞ったねと声をかけてもらうと嬉しいです」（齋藤日葵）。「この文化を受け継いで、伝えていかなきゃという責任感が生まれました」（中川将太）。

コロナ禍によりここ2年はまつりが中止に。3年連続の中止は避けたいと組頭を務める齋藤博文さんはメンバーを2班に分けて稽古を行い、まつり当日の門付けも1軒の家を5分以内にするなどの工夫をして、2022年は2年ぶりに春の例大祭で鬼太鼓が披露された。「まつりは地域のみなさんの幸せを祈る行事ですし、鬼太鼓は幸せをもたらしてくれるものなのです」（齋藤博文）。佐渡の人たちが自らの手で伝え守り、受け継いでいる鬼の舞を、ぜひ一度間近で見てほしい。

NIIGATA Culture Tourism

本ガイドブックと連携したスペシャルムービー。春日鬼組による春日神社での演舞も収められている。佐渡の文化と魅力を感じながら旅のイメージを膨らませてほしい。

まつりの現場を訪ねて［鷲崎 村まつり］

集落の人たちが笑顔に活気と絆を感じた秋の日

旧暦の9月9日。2022年は10月4日に行われた鷲崎（わしざき）集落の村まつり。景勝地・二ツ亀に近い島北部に位置する鷲崎集落の住民で構成されているのが鷲崎鬼太鼓保存会だ。まつりの朝は早い。朝6時に集落の矢崎神社にて「打ち出し」と言われる最初の鬼太鼓を奉納。その後、本来であれば一軒一軒の家を門付けして廻るのだが、コロナ禍でのリスクを考慮して、住民たちが集まりやすい広場や学校近くなど数か所を順に廻り鬼太鼓を演舞。子どもから大人まで住民たちが見守るなか、躍動感のある舞が披露された。合間には住民から保存会へのご祝儀や振る舞いと呼ばれる差し入れが次々と渡される。お酒や煮しめ、手作りのサンドイッチなどさまざま。邪気を払ってくれる鬼太鼓と保存会への感謝の気持ちの表れだ。集まった集落の人同士の会話や、ご祝儀のお酒が入り少しずつ陽気になっていく保存会メンバーたちの笑い声が響く賑やかな一日。年に一度のまつりがいかに大切なもので「鬼」が地域のヒーローとして親しまれているかを強く感じることができた。

1内海府小中学校前での門付け。近所の住民や生徒たちが集い、雄姿に拍手を送った　**2**昼に矢崎神社に戻り最後の「打ち納め」を終えた後は保存会メンバーでの大宴会。メンバーのひとりである漁師が獲ったマハタのお刺身に舌鼓を打ちお酒を酌み交わす。14時に始まった宴は22時過ぎまで続いたそう

3・4鬼役の先輩から若い世代への熱い指導。近年鷲崎に移住し、新たに加わったメンバーは「鬼を踊ることで集落の一員になれた感覚がありますし、世代を超えて集まれるのが楽しいです」と話してくれた
5鷲崎港を見守るように鎮座する矢崎神社

佐渡の鬼太鼓を見に行こう

4月～11月にかけ、島内各地域のまつりで鬼太鼓が演舞される。地域にとって大切なおまつりなので、敬意を払いながら見学を。
開催日程等は右記から
※一部見学ができないまつりもあり

data
お問い合わせ先
佐渡観光交流機構　tel.0259-27-5000

鬼太鼓の面打ち師が技をつなぐ

渡邉有恒さん

90歳を超えた今も現役で面を彫り、その技術を若い人たちに継承。制作の合間にアドバイスをしている。さらに面打ちをする人が増え、渡邉さんの技術がつながっていくことを切に願う

思いを込めた手彫りの面が佐渡の鬼太鼓を支える

現在も島内に100を超える団体があると言われる鬼太鼓。長い歴史のなかでそれぞれに変化を遂げてきたため鬼役が付ける面もさまざま。赤や黒、角があるものとないもの、口を開けているものと閉じているもの。その違いを見るのもひとつの楽しみ方だ。島内で彫刻家として活動する渡邉有恒さんは、今ではごくわずかとなってしまった面打ち師のひとり。「最初は能面を作ったのがきっかけ。だから師匠はいないんだよ」と笑う。30代後半から独学で彫るようになったが、次第に技術の高さが評判となり新穂地区を中心に多くの団体から注文や修理の依頼が来るようになった。軽い材質のキリや強度のあるシナノキの丸太を切り出し、ノミを使ってすべて手彫りで形作っていく。「面は目と口元がすべて。どう彫ったら厳しい目つきになるか、笑っているような口元になるかが大事なんだ。自分が彫った面を付けた鬼が踊るのを見る瞬間は何歳になってもうれしいもんだよ（笑）」と語ってくれた。

渡邉有恒さん
Aritsune Watanabe

昭和7年生まれ。佐渡市の彫刻家、版画家として数多くの作品を手掛けている。新潟県美術展覧会での受賞歴も多数